

メアリー・カサット展

MARY
CASSATT
Retrospective
プレスリリース

会場 横浜美術館
 会期 2016年6月25日(土)～9月11日(日)
 開館時間 10:00～18:00 ※9月2日(金)は20:30まで開館(入館は閉館の30分前まで)
 休館日 木曜休館(ただし8月11日は開館)
 主催 横浜美術館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
 後援 横浜市
 助成 駐日アメリカ合衆国大使館
 協賛 大日本印刷
 協力 横浜高速鉄道株式会社、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社

観覧料	(税込/円)	当日	前売・団体
一般		1,600	1,400
大学・高校生		1,100	900
中学生		600	400

◎小学生以下無料
 ◎65歳以上は一般当日料金から100円引き(要証明書/美術館券売所でのみ対応)
 ◎団体料金は有料20名以上(会場でのみ販売、要事前予約 TEL:045-221-0300)
 ◎毎週土曜日は高校生以下無料(要生徒手帳、学生証)
 ◎障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料
 ◎観覧当日に限り本展の観覧券で「横浜美術館コレクション展」も観覧可
 ◎前売券は4月5日(火)～6月24日(金)まで販売。

チケット取扱場所 展覧会公式サイト内オンラインチケット
<http://cassatt2016.jp/>
 ※自宅やオフィスのプリンターでチケットを発券できる便利なサービスです。手数料無料。

チケットぴあ(Pコード:767-336)
<http://t.pia.jp/> TEL:0570-02-9999
 【店頭販売】セブンイレブン、サークルK・サンクス、チケットぴあ店舗

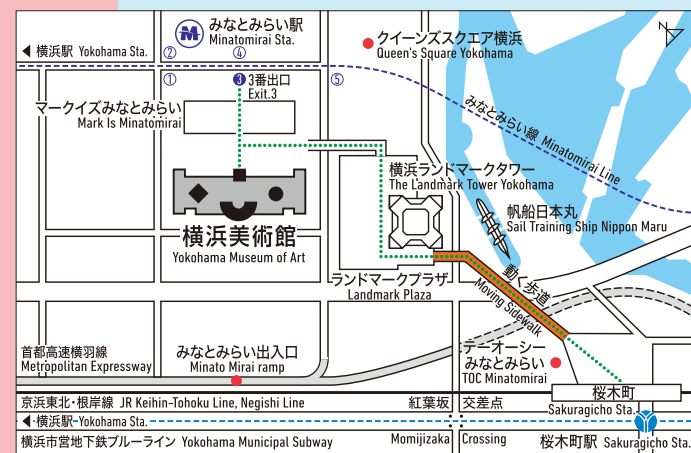
ローソンチケット(Lコード:34446)
<http://l-tike.com/> TEL:0570-084-003、0570-000-777(オペレーター対応)
 【店頭販売】ローソン、ミニストップ

e+ (イープラス)
<http://eplus.jp/cassatt2016/>
 【店頭販売】ファミリーマート

CNプレイガイド
<http://www.cnplayguide.com/> TEL:0570-08-9999(オペレーター対応)
 【店頭販売】ファミリーマート

その他の販売窓口
 横浜美術館/JTB各支店・JTB総合提携店/ちけっとぽーと関東8店舗ほか

お得なペアチケットを期間限定で先行販売!! 販売期間:2月26日(金)～4月4日(月) 販売場所:横浜美術館および上記プレイガイド
2枚1組2,400円(税込)



横浜美術館
 YOKOHAMA MUSEUM OF ART

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
 TEL:045-221-0300(代) FAX:045-221-0317
<http://yokohama.art.museum>

アクセス
 ●みなとみらい線(東急東横線直通)「みなとみらい駅」3番出口から徒歩3分
 ●JR、横浜市営地下鉄線「桜木町駅」から「動く歩道」を利用、徒歩10分
 ◎駐車場(10:00～21:00、収容台数169台):最初の90分は500円、以降30分ごとに250円

展覧会公式サイト <http://cassatt2016.jp/>

報道関係お問合せ TEL:03-6826-8708 FAX:03-3499-0958 E-mail:cassatt2016@ypcpr.com
 「メアリー・カサット展」広報事務局(ユース・プランニングセンター内) 〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F

巡回情報(京都会場) 会期 2016年9月27日(火)～12月4日(日)
 会場 京都国立近代美術館
 主催 京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社

表紙の作品
 メアリー・カサット「眠たい子どもを沐浴させる母親」(部分) 1880年 油彩、カンヴァス 100.3×65.7cm、ロサンゼルス郡立美術館蔵 Digital Image © 2015 Museum Associates / LACMA. Licensed by Art Resource, NY



メアリー・カサット展

横浜美術館
 YOKOHAMA MUSEUM OF ART



はじめに

印象派を代表する米国人女性画家、メアリー・カサット(1844-1926)の回顧展を35年ぶりに日本で開催いたします。米国ペンシルヴェニア州ピッツバーグ郊外に生まれたカサットは、画家を志して21歳のときにパリに渡りました。古典絵画の研究から出発し、新しい絵画表現を模索するなかでエドガー・ドガと出会い、印象派展に参加するようになります。そして、軽やかな筆づかいと明るい色彩で身近な女性たちの日常を描き、独自の画風を確立しました。特に温かい眼差しで捉えた母子の姿は多くの共感を呼び、「母子像の画家」と呼ばれるようになりました。女性の職業画家がまだ少なかった時代に、さまざまな困難を乗り越えて画家となる意志を貫いたカサットの生き方は、現代の我々にも勇気を与えてくれます。

本展では、カサットの油彩画やパステル画、版画の代表作に加え、エドガー・ドガ、ベルト・モリゾなど交流のあった画家たちの作品、画家が愛した日本の浮世絵版画や屏風絵なども併せて合計約100点を展覧し、初期から晩年にいたる画業の全貌を紹介します。愛にあふれるカサット芸術の真髄をどうぞお楽しみください。

主催者

《母の愛撫》(部分)1891年 ドライポイント、ソフトグランド・エッチング、アクアチント 36.7×26.9cm アメリカ議会図書館蔵
Image courtesy of the Prints & Photographs Division, Library of Congress



メアリー・カサット 1914年 ©Granger/PPS通信社

メアリー・カサット

1844-1926

- 1844年 5月22日、ペンシルヴェニア州ピッツバーグ近郊の裕福な家庭に生まれる。
- 1851-55年 (7-11歳) 次兄ロバートの病氣治療のため一家でヨーロッパに渡り、パリやハイデルベルクに長期滞在。
- 1860-62年 (16-18歳) フィラデルフィアのペンシルヴェニア美術アカデミーに在籍。
- 1865年 (21歳) 画家になる意志を固め、親友イライザ・ホールデマンとパリに渡る。
- 1866年 (22歳) シャルル・シャブラン、ジャン＝レオン・ジェロームの画塾で指導を受ける。
- 1867年 (23歳) この頃からエクアンやクーランスの芸術家村を訪れ、トマ・クチュールらの教えを受け、風俗画を制作するようになる。
- 1868年 (24歳) 《マンドリン奏者》がパリのサロンに初入選する。
- 1870年 (26歳) 7月、普仏戦争が勃発したため米国に帰国。
- 1871年 (27歳) 年末、ピッツバーグ司教からバルマ(伊)にあるコレッジョの作品の模写を依頼され再渡欧。
- 1872-74年 (28-30歳) バルマの美術学校で学び、16世紀のイタリアの画家、コレッジョやバルミジャーノを研究。マドリッドに滞在し、プラド美術館で巨匠たちの絵を模写する。74年、パリに居を定める。
- 1875年頃 (31歳) パリの画廊のウィンドウに飾られたエドガー・ドガの作品を見て衝撃を受ける。
- 1877年 (33歳) ドガと知り合い、印象派展に出品を勧められる。両親と姉のリディアがパリに移り住み、家族をモデルにした作品を制作するようになる。
- 1879年 (35歳) 第4回印象派展に参加。以後第7回を除き、印象派展に毎回出品する。
- 1882年 (38歳) この頃から、姉の死と年老いた両親の介護などで約2年間制作ができなくなる。
- 1890年 (46歳) パリのエコール・デ・ボザール(国立美術学校)で開催された浮世絵版画展に感銘を受け、多色刷り銅版画の制作を開始。
- 1892年 (48歳) シカゴ万国博覧会女性館の壁画「モダン・ウーマン」を制作。翌年公開される。
- 1893年 (49歳) デュラン＝リュエル画廊で大規模な個展を開催し成功を収める。
- 1896年 (52歳) この頃から、ハヴマイヤー夫妻らアメリカのコレクターに作品収集の助言をするようになる。
- 1904年 (60歳) フランス政府からレジオンドヌール勲章シュヴァリエ章を受章。
- 1926年 (82歳) 6月14日、ル・メニル＝テリビュのポーフレース館で没。

※()は、当該年に迎えた年齢であり、年譜の出来事が満年齢に達していない場合もあります。

みどころ

- 1 印象派を代表する女性画家の、国内で**35年ぶり**に開催される**大回顧展**です。
- 2 名作《**棧敷席にて**》がボストン美術館から**初来日**します。
- 3 カサットの代表作、「**母子像**」の名品が多数出品されます。
- 4 近代版画の傑作、**多色刷り銅版画**のシリーズが**10点揃って展覧**される貴重な機会です。
- 5 女性画家の**パイオニア**として生きたカサットの、**強くエレガントな人生**に注目します。

カサットの生き方

19世紀後半のパリの美術界で異国の女性画家が認められるのは簡単なことではありませんでした。それを可能にしたのは、カサットの教養と気品を備えバイタリティーにあふれた人間的な魅力、そして画家として自立しようという強い意志だったといえるでしょう。カサットは、生涯を独身で通し、最も親しかった姉の死や両親の介護などを乗り越え、その意志を貫きました。また、富豪ハヴマイヤー夫人との友情を育み、夫妻の美術品コレクションのアドバイザーとなって、アメリカの近代美術の発展に貢献するなど、その活動は広がりのあるものでした。本展では、そのようなカサットの人間的な魅力にも迫ります。



ル・メニル=テリビュのカサット邸の正面階段にて、1910年9月
左から2番目がメアリー・カサット
Archives Durand-Ruel © Durand-Ruel & Cie.

女性画家の視点

劇場の棧敷席、ティーパーティー、暖炉の前での読書、子どもとの穏やかな時間。カサットが描いたのは、19世紀後半のパリに暮らすブルジョワジーの女性たちの日常。彼らと同じ空間で暮らし、同じ時間を過ごした女性画家だからこそ描けた、人のぬくもりや生活の気配が、見る者を画面の中の世界に引き込みます。



《母の愛撫》1896年頃 油彩、カンヴァス 38.1×54.0cm フィラデルフィア美術館蔵
Courtesy of the Philadelphia Museum of Art, Bequest of Aaron E. Carpenter, 1970

版画家としてのカサット

カサットが優れた版画家だったことは、あまり知られていません。カサットは、ドガやピサロとともに銅版画の技法を研究し、新しい表現に取り組みました。腐蝕銅版画の一種であるアクアチントによる光の表現や、ドライポイントの素早い線で捉えた人物の瞬間の表情が見どころです。本展では、近代版画の傑作と言われる10点組の多色刷り銅版画全点を展示するほか、日本初公開作品を含めた約50点を紹介します。



《手紙》1890-91年
ドライポイント、アクアチント
34.6×22.5cm
アメリカ議会図書館蔵
Image courtesy of the Prints & Photographs Division, Library of Congress

ドガとカサット

「私はウィンドウに近寄って、そこに鼻を押し付け、彼の芸術から吸収できる全てを吸収したのです。その絵が私の人生を変えてしまいました。」

エドガー・ドガのバステル画を見て衝撃を受けたカサットは、彼の勧めで印象派展への出品を決意し、革新的な表現を模索するようになります。二人は互いの芸術性を認め合い、影響を与えあったと言われています。近年、謎に満ちた二人の関係に注目が集まっており、2014年には、ワシントン・ナショナル・ギャラリーで「ドガ／カサット」展が開催されました。また、二人の関係を描いたロマンス小説がアメリカで出版され、話題となっています。



エドガー・ドガ《踊りの稽古場にて》1884年頃 バステル、紙(厚紙に貼付) 39.9×73.0cm ボーラ美術館蔵

同時代の女性画家たち

19世紀後半は、まだ女性の職業画家がとても少ない時代でした。女性たちはエコール・デ・ボザールへの入学が許されず、主に有名画家の私塾で学び、ルーヴル美術館で巨匠たちの作品の模写をして腕を磨きました。本展では、カサットと関係のあった同時代の才能豊かな女性画家たち、フランス印象派のベルト・モリゾ、エヴァ・ゴンザレス、マリー・ブラックモン、アメリカからフランスに渡り研鑽を積んだエリザベス・ガードナー・ブグロー、シカゴ万博女性館の壁画でカサットと競い合ったメアリー・マクモニーズなどを紹介します。



ベルト・モリゾ《縫い物をする女性》1879年頃 油彩、カンヴァス 65×54cm オルブライト=ノックス・アート・ギャラリー蔵
Collection Albright-Knox Art Gallery Buffalo, New York, Fellows for Life Fund, 1926

カサットが愛した日本美術

印象派の画家たちが浮世絵から影響を受けたことは広く知られていますが、カサットも例外ではありませんでした。1890年にエコール・デ・ボザールで開かれた浮世絵展で喜多川歌麿や鳥居清長の作品に感動し、女性の風俗を主題とする多色刷り銅版画を制作しました。浮世絵から学んだ平面性や画面構成、形態の単純化を油彩画にもとりいれ、母子を主題とする独自の画風を確立しました。カサットは自身でも浮世絵版画や屏風絵をコレクションしていたことが知られています。本展では、画家が愛した日本美術の作品を紹介します。



喜多川歌麿《覗き》1800年頃 多色木版
37.8×25.4cm フィラデルフィア美術館蔵
Courtesy of the Philadelphia Museum of Art,
The Samuel S. White 3rd and
Vera White Collection, 1958

カサットの傑作、日本初公開!



《栈敷席にて》

1878年 油彩、カンヴァス 81.3×66.0cm ポスト美術館蔵
The Hayden Collection—Charles Henry Hayden Fund, 10.35. Photography © 2015 Museum of Fine Arts, Boston

劇場は、ドガやルノワールら印象派の画家たちが好んだ題材のひとつ。カサットも1878年から1880年頃にかけて華やかな劇場の栈敷席を描きました。

- ※ **劇場の栈敷席** 19世紀後半のパリで、オペラや演劇の鑑賞は、ブルジョワジーの新しい娯楽でした。華やかな劇場は彼らの社交場で、紳士たちにとっては栈敷席にお目当ての女性を見つけることも楽しみのひとつでした。
- ※ **黒いドレス** 女性たちは、男性から見られることを意識して、夜の観劇には大胆に肌を出した華やかなドレスを着用しました。この絵の女性が着ているのは昼間用の外出着。女性は男性の目を気にせず芝居を楽しむために、マチネ（昼興行）に来たのでしょうか。当時流行の黒いドレスが、女性の知的な横顔を引き立てています。
- ※ **交錯する視線** オペラグラスで一心に舞台を見つめる女性。向こうの客席から身をのりだすようにこちらを見ている男性。そして、その場面を眺める私たちの視線。三つの視線が交錯するスリリングな画面構成のなかで、男性に見られる存在である女性が、見る主体として堂々と描かれており、カサットの革新的な女性像の表現への意欲がうかがえます。

カサットの代表作、母子像



《眠たい子どもを沐浴させる母親》

1880年 油彩、カンヴァス 100.3×65.7cm、ロサンゼルス郡立美術館蔵
Digital Image © 2015 Museum Associates / LACMA. Licensed by Art Resource, NY

第5回印象派展(1880年)に出品された作品で、カサットの最初期の母子像のひとつと考えられます。家庭の日々の営みの中にある幸福な一瞬が描かれています。

- ※ **軽やかなタッチと明るい色彩** カサットは、ベルト・モリゾら印象派の画家たちと親交を結び、その軽やかで明るい画面を自分の作品にも取り入れました。
- ※ **とろける眼差し** まどろみながら母親に身をゆだねる子どものとろけるような眼差し。すべてを包み込むように受け止める母親の優しい眼差し。静かに話しかける母親の声が聞こえてくるようです。
- ※ **仕事をする母親の手** 母親は子どもを膝に抱き、右手でスポンジを絞っています。画面全体が柔らかいタッチで描かれるなか、母親の右手だけが克明に描写されています。それによって、子どものために働く母親の日常がリアリティをもって伝わってくるのです。

第1章

画家としての 出発



《バルコニーにて》1873年 油彩、カンヴァス 101.0×54.6cm フィラデルフィア美術館蔵
Courtesy of the Philadelphia Museum of Art, Gift of John G. Johnson for the W. P. Wiltach Collection, 1906



《刺繍するメアリー・エリソン》1877年 油彩、カンヴァス 74.3×59.7cm フィラデルフィア美術館蔵
Courtesy of the Philadelphia Museum of Art, Gift of the children of Jean Thompson Thayer, 1986

アリー・カサットは、1844年米国ペンシルヴェニア州ピッツバーグ郊外の裕福な家庭に生まれました。6歳から11歳まで、次兄の病気療養のため、家族とともにフランスやドイツに長期滞在し、ヨーロッパの文化や芸術を吸収しました。画家を目指して16歳でペンシルヴェニア美術アカデミーに入学しましたが、本格的に絵画の勉強をするため、父親の反対を押し切って21歳のときにパリに渡ります。アカデミズムの画家シャルル・ジャブランやトマ・クチュールらの教えを受け、1868年にサロンに初入選を果たしました。1870年普仏戦争により帰国を余儀なくされますが、翌年、ピッツバーグ司教からパルマのコレージオの作品の模写をする仕事を依頼されて再渡欧。イタリア、スペインに滞在してルネサンスや17世紀の巨匠たちの作品を模写して研鑽を積みました。この時期にサロン出品を目指して制作された作品には、確かなデッサン力に加え、強い明暗のコントラスト、闊達な筆づかいなど、スペインやイタリアの巨匠たちから学んだ成果を見ることができます。

第2章

印象派との 出会い

カサットは、自分の作品を正当に評価しないサロンに次第に不満を持つようになりました。一方でエドガー・ドガの作品からインスピレーションを受けて、革新的な絵画表現を目指すようになります。カサットはドガの誘いを受けて1879年の第4回印象派展に出品し、その後第7回を除き毎回出品しました。印象派の影響の下で、彼女の絵画は、自由な筆致と明るい色彩を特徴とした画面へと変化します。この頃、両親と姉のリディアがアメリカから移住して同居するようになり、彼らをモデルに、華やかな観劇の様子や家庭の情景を描きました。また、1880年代には、ドガやピサロとともに銅版画の制作に熱中し、実験的な技法による版画作品を数多く生み出しました。



《浜辺で遊ぶ子どもたち》1884年 油彩、カンヴァス 97.4×74.2cm ワシントン・ナショナル・ギャラリー蔵
National Gallery of Art, Washington, Ailsa Mellon Bruce Collection, 1970.17.19



《タビストリーの織機に向かうリディア》1881年頃 油彩、カンヴァス 65.5×92.0cm
プリント・インスティテュート・オブ・アーツ蔵
Collection of the Flint Institute of Arts, Flint, Michigan



《ロバート・S・カサット夫人、画家の母》1889年頃 油彩、カンヴァス 96.5×68.6cm
デ・ヤング、サンフランシスコ美術館蔵
Fine Arts Museums of San Francisco, Museum purchase,
William H. Noble Bequest Fund, 1979.35

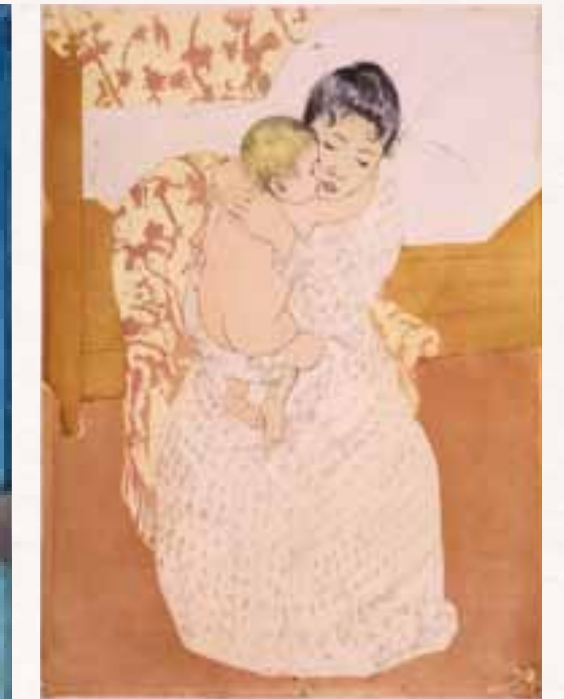
第3章

新しい表現、 新しい女性

1890年、パリのエコール・デ・ポザールで開催された浮世絵版画展に感銘を受けたカサットは、歌麿や清長の風俗表現や平面的な画面構成を研究し、女性の日常を描いた多色刷り銅版画の連作を制作しました。日本美術の研究と深い理解は、やがて彼女の油彩画にも変化をもたらし、母子像を主なテーマとする独自の画境を切り開きました。1892年から翌年にかけてシカゴ万国博覧会の女性館のために「現代の女性」をテーマにした壁画の制作に取り組み、新しい時代の女性像の表現を展開していきます。1893年デュラン=リュエル画廊で開催された回顧展が高く評価されて、パリの美術界で確固たる地位を築き、1904年にはフランス政府からレジオンドヌール勲章シュヴァリエ章を受章しました。また、ハヴマイヤー夫妻をはじめアメリカの美術品コレクターのアドバイザーとして活躍し、アメリカの近代美術の発展にも寄与したのです。晩年は視力を失って作品の制作から遠ざかり、1926年、82歳でル・メニル=テリビュの自邸ポーフレヌ館で亡くなりました。



《果実をとろうとする子ども》1893年 油彩、カンヴァス 100.3×65.4cm ヴァージニア美術館蔵
Virginia Museum of Fine Arts, Richmond, Gift of Ivor and Anne Massey, 75.18 Photo: Travis Fullerton © Virginia Museum of Fine Arts



《母の愛撫》1891年 ドライポイント、ソフトグラウンド・エッチング、アクアチント
36.7×26.9cm アメリカ議会図書館蔵
Image courtesy of the Prints & Photographs Division, Library of Congress

《沐浴する女性》1890-91年 ドライポイント、ソフトグラウンド・エッチング
36.7×26.8cm プリンマー・カレッジ蔵 Courtesy of Bryn Mawr College



《青い服を着た少年(No.2)》1906年頃 パステル、紙 64.8×50.2cm アディソン美術館蔵
Addison Gallery of American Art, Phillips Academy, Andover, Massachusetts,
gift of anonymous donor, 1930.300 / Art Resource, NY



《夏の日》1894年 油彩、カンヴァス 100.6×81.3cm テラ・アメリカ美術基金蔵
Terra Foundation for American Art, Daniel J. Terra Collection, 1988.25
Photography © Terra Foundation for American Art, Chicago